

2019年度大学入試センター試験概況分析

河合塾

2019/2/8

このほど、大学入試センターから2019年度大学入試センター試験（以下、センター試験）の実施結果が発表され、受験者数、科目別平均点などが判明した。以下、今年度のセンター試験の概況を振り返る。

■志願者数・受験者数とも微減

2019年度センター試験は1月19・20日の2日間にわたり、全国693の試験会場で実施された。

各地で監督者のミスなどがあったものの、天候による交通機関の乱れなどの大きなトラブルはなかった。

また、試験終了後、大学入試センターは東京、宮城、三重の3都県で試験中の不正行為があったことを公表した。不正の内容は試験終了後のマークシートの修正、試験中のスマートフォンや定規の使用などで、該当の受験生の成績は全科目無効とされた。

今年度の志願者数は576,830人（前年比99.0%）、受験者数は546,198人（前年比98.6%）といずれも前年から若干の減少となり、受験率も昨年の95.1%から94.7%とダウンした【図表1】。18歳人口の減少に加え、2018年度一般入試の難化の影響から推薦・AO入試へ回避した受験生が例年より多かったことが要因と考えられる。

【図表1】センター試験 志願者数・受験者数推移

年度	志願者数	受験者数			受験率
		総数	本試験のみ	追試験または再試験のみ	
2010	553,368	520,600	519,707	453	94.1%
2011	558,984	527,793	527,405	204	94.4%
2012	555,537	526,311	525,838	129	94.7%
2013	573,344	543,271	542,943	233	94.8%
2014	560,672	532,350	531,987	158	94.9%
2015	559,132	530,537	530,177	280	94.9%
2016	563,768	536,828	536,659	106	95.2%
2017	575,967	547,892	547,391	301	95.1%
2018	582,671	554,212	553,762	320	95.1%
2019	576,830	546,198	545,588	491	94.7%

※大学入試センター資料より
※受験率は受験者数(総数)÷志願者数

■受験科目数別受験者の割合

【図表2】は受験科目数別の受験者数である。4～6科目、3科目での減少数が多い。これらの科目数の受験者減少は私立型生の減少を表す。近年、私立大人気の上昇や大学のセンター利用方式の拡大により増加していたが、久しぶりに減少に転じた。昨春入試で大学入学定員管理の適正化を背景に都市部私立大が総じて難化した影響から、私立型生の減少につながっていると考えられる。

【図表2】センター試験 受験科目数別の受験者数

受験科目数	受験者数			前年差
	17年度	18年度	19年度	
8科目	10,174	9,812	8,952	-860
7科目	297,009	296,661	295,090	-1,571
4～6科目	99,892	102,748	98,967	-3,781
3科目	121,383	126,012	123,605	-2,407
1・2科目	19,434	18,979	19,584	+605
合計	547,892	554,212	546,198	-8,014

※大学入試センター資料より

■科目別平均点の変化

【図表3】は大学入試センターが公表した主な科目の平均点と受験者数の一覧である。

英語では筆記の平均点は昨年並みだったものの、昨年過去最低の平均点となったリスニングが易化した影響で、全体の平均点はアップした。数学では「数学Ⅰ・数学A」の平均点が2.2点ダウンしたものの、「数学Ⅱ・数学B」の平均点が2.1点アップした。注目は国語の平均点で、昨年から16.9点と大幅にアップした。

理科①では、最も選択者の多い「生物基礎」の平均点が昨年から4.6点ダウンした。ただし、科目間の平均点差はほとんどなく、選択科目による不公平感を感じられなかった。理科②では、受験者の多い「物理」「化学」の平均点がダウンした。

地歴・公民では、昨年平均点が高かった「地理B」で6.0点ダウン、「倫理,政治・経済」で8.9点ダウンとなった。4単位科目の平均点はいずれも6割を超えており、その差も小さくなっている。

理科②、地歴B・公民2単位科目の科目間の平均点差が大きいとき実施される得点調整は、実施されなかった。

【図表3】センター試験 主要科目平均点・受験者数(本試験)

教科・科目名		平均点			受験者数		
		18年度	19年度	差	18年度	19年度	差
英語	筆記	123.75	123.30	-0.5	546,712	537,663	-9,049
	リスニング	22.67	31.42	+8.8	540,388	531,245	-9,143
数学①	数学Ⅰ	33.82	36.71	+2.9	5,877	5,362	-515
	数学Ⅰ・数学A	61.91	59.68	-2.2	396,479	392,486	-3,993
数学②	数学Ⅱ	25.97	30.00	+4.0	5,764	5,378	-386
	数学Ⅱ・数学B	51.07	53.21	+2.1	353,423	349,405	-4,018
国語		104.68	121.55	+16.9	524,724	516,858	-7,866
理科①	物理基礎	31.32	30.58	-0.7	20,941	20,179	-762
	化学基礎	30.42	31.22	+0.8	114,863	113,801	-1,062
	生物基礎	35.62	30.99	-4.6	140,620	141,242	+622
	地学基礎	34.13	29.62	-4.5	48,336	49,745	+1,409
理科②	物理	62.42	56.94	-5.5	157,196	156,568	-628
	化学	60.57	54.67	-5.9	204,543	201,332	-3,211
	生物	61.36	62.89	+1.5	71,567	67,614	-3,953
	地学	48.58	46.34	-2.2	2,011	1,936	-75
地歴	世界史A	39.58	47.57	+8.0	1,186	1,346	+160
	世界史B	67.97	65.36	-2.6	92,753	93,230	+477
	日本史A	46.19	50.60	+4.4	2,746	2,359	-387
	日本史B	62.19	63.54	+1.4	170,673	169,613	-1,060
	地理A	50.03	57.11	+7.1	2,315	2,100	-215
	地理B	67.99	62.03	-6.0	147,026	146,229	-797
公民	現代社会	58.22	56.76	-1.5	80,407	75,824	-4,583
	倫理	67.78	62.25	-5.5	20,429	21,585	+1,156
	政治・経済	56.39	56.24	-0.1	57,253	52,977	-4,276
	倫理政治・経済	73.08	64.22	-8.9	49,709	50,886	+1,177

※大学入試センター資料より

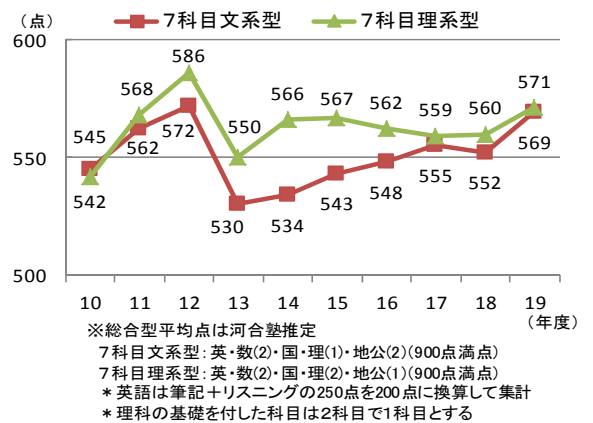
■総合型平均点一文系・理系とも8割以上得点者が増加

【図表4】は河合塾が推定するセンター試験の7科目型の平均点推移である。今年度の平均点は7科目文系型(900点満点)が569点(前年差+17点)、7科目理系型(900点満点)が571点(前年差+11点)となった。

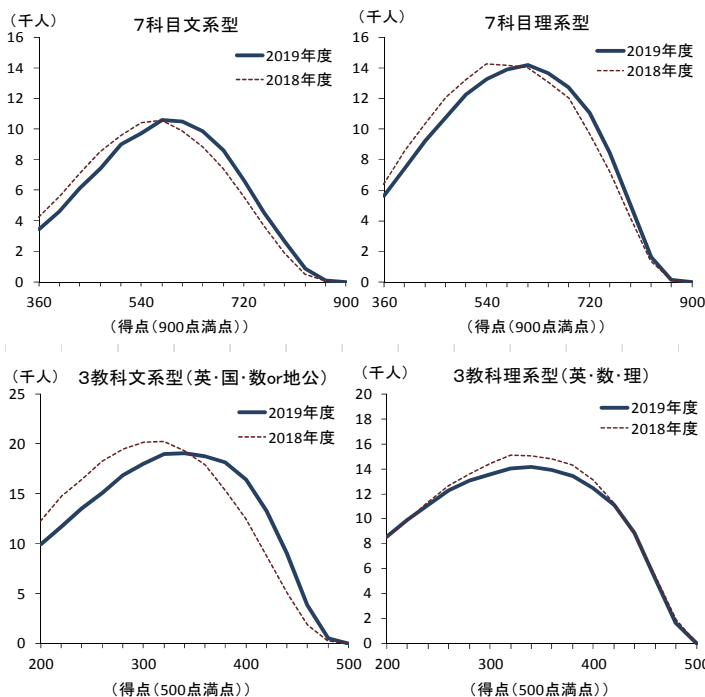
文理ともに受験する「英語リスニング」「国語」の平均点アップが、総合の平均点の上昇につながっている。

なお、理系型では、多くの理系生が受験する「物理」「化学」や選択者の多い「地理B」での平均点ダウンが影響し、文系型よりもアップ幅が小さくなった。

【図表4】センター試験 総合型平均点推移



【図表5】センター・リサーチ 7科目型、3科目型受験者の得点分布



【図表5】は河合塾が実施した自己採点集計「センター・リサーチ」参加者の得点分布である。

7科目型では、文系・理系型とも720点(得点率8割)以上の高得点層が昨年から増加した。昨年に比べて高得点を取りやすい状況だったことがうかがえる。

3教科型の得点分布をみると、文系型では7科目型と同様に平均点はアップしており、400点(得点率8割)以上の高得点層は、昨年から大幅に増加し、グラフも大きく右側にシフトした。一方で理系型の平均点はダウンしており、7科目型とは状況が異なった。国語の平均点アップが加味されないこと、「物理」「化学」の平均点ダウンの影響が大きいのである。得点率5~8割の得点層の減少が目立っているため、昨年に比べ中央部分が低い山型のグラフとなった。